

2014年ノーベル物理学賞受賞者天野浩教授の特別講演会を開催

琉球大学島嶼防災研究センターは、去る2月17日に琉球大学で第8回防災・環境シンポジウムを開催し、2014年ノーベル物理学賞受賞者の天野浩名古屋大学大学院教授による特別講演会「名古屋の大学から生まれた青色LED～私の大学院修士時代から助教まで～」を開催しました。

大城肇琉球大学長の開会の辞に続いて波平宜敬島嶼防災研究センター長による挨拶の後、天野教授の講演会が行われました。

講演で、天野教授はこれまでの歩みを振り返り、赤崎勇教授からの薫陶により青色LEDの基礎が実現できたことや、研究者は強い信念を持って日々の研究に取り組む姿勢が重要であることを述べられました。また、ノーベル賞授賞式の様子を、貴重なエピソードを交えつつ紹介いただきました。

講演会に参加した約300名は熱心に話を聴き、質疑応答では本学学生等から活発な質問がなされ、講演時間を大幅に超えるほどの盛り上がりを見せました。

本講演会は、天野教授と親交のある波平島嶼防災研究センター長が、琉球大学の学生や若手研究者の研究意欲を高め、研究活動の促進に繋がりたいとの強い思いで実現しました。講演会場は定員を超える入場希望者があったため、大学内の別教室を第2会場として用意し、講演の映像を同時配信することで、より多くの方に参加いただきました。

また、「地(知)の拠点整備事業」によって設置した島嶼地域を含む3つのサテライトキャンパスへも同時配信を行い、本学から離れた地域に居住している方々も講演会を聴いていただける貴重な機会となりました。



天野教授による講演



大城琉球大学長の開会の辞



波平島嶼防災研究センター長の挨拶



講演会場の様子

天野浩博士 琉球大学地域創生総合研究棟にて来学記念植樹

2月17日に、ノーベル物理学賞受賞者の天野浩博士が、本学の地域創生総合研究棟にて来学記念植樹を行われました。その後、琉球大学産学官連携交流フロアにて、来学を記念、そして産学官連携を記念して、『人々のために』と記された書を贈られました。



記念植樹（天野浩博士（中央）、島嶼防災研究センター長波平教授（左）、副学長仲座栄三（右））



地域創生総合研究棟産学官連携交流フロアにて

日本人初のノーベル賞受賞者 湯川秀樹博士（物理学）は、1963年に、当時首里にあった本学を訪れ、「学而不厭（がくじふえん）」と書き記し、その書を贈られました。その書は、現在、琉球大学図書館の正面玄関に掲げられています。

それから半世紀を経て、ノーベル物理学者天野浩先生によって、その時の再来をほうふつとさせる大記念の業が、執り行われることとなりました。「二度あることは三度ある」と言われていますが、天野先生の記念講演を聞いた若者達が、必ずその志を受け継ぎ、次の記念の業を成し得てくれるに違いありません。

天野先生の青色LEDに係わる発明は、「人類に最高の利益をもたらせる」と言われています。まさに大学発のイノベーションであり、産学官連携研究の鑑と言えるでしょう。天野先生が琉球大学産学官連携交流フロアにて記された『人々のために』の言葉は、人類の発明が人々の幸福に貢献することを願われてのことです。

天野先生が来学された2015年2月17日を記念し、仲座栄三産学官連携推進機構長はこの日を「産学連携研究の日」に設定すると宣誓を行いました。